



佐保会徽章

奈良女子大学同窓会佐保会

滋賀支部だより

2021年2月12日
佐保会滋賀支部
会員数 415名

《新支部長就任のご挨拶》



令和2年度・3年度の支部長をつとめることになりました昭和53年家政学部食物学科卒業の山仲幸です。今年度については、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のために6月の総会は紙上開催、その後の支部事業もほとんどが中止のやむなきに至りましたので、皆様にご挨拶させていただくのもこの紙面が初めての機会となりました。今まで佐保会滋賀支部を支えてこられた諸先輩の足元にも及びませんが、一日も早く普段通りの生活が送れるようになるのをお願い

つつ、浅野前支部長様はじめ新支部役員の皆様のご協力も得ながら全力を尽くして参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

★★★ 紙上現地探訪～光秀の足跡を訪ねて～ ★★★

今年度は大河ドラマ「麒麟がくる」で明智光秀が取り上げられました。おうみ佐保塾でも光秀に関する講演会、現地探訪を予定していましたが、コロナウィルスの蔓延により実施がかなわなくなりました。秋になり感染の様子を見極めながら、役員3名（山仲、高原、浅野）で、光秀にゆかりのある史跡を訪ねました。

先ずは大津市立歴史博物館。こちらでは「明智光秀と戦国時代の天津」と併せて「明智光秀と坂本城」のミニ企画展が開催されていました。会場に入ってまず目を引いたのが、坂本の盛安寺に光秀の陣太鼓と伝えられている太鼓です。皮は新しいものに張り替えられていますが、胴は木目が浮いており、いかにも天正年間のものでした。盛安寺は別名明智寺ともよばれ、光秀の位牌も祀られています。湖西での信長軍と浅井・朝倉軍との戦い、比叡山焼き討ちと光秀の関わりなどが展示されていました。大河ドラマの進行とも内容が重なり、興味をひかれました。その他、光



秀の居城だった坂本城の発掘の様子、出土物の展示もありました。

午後からは坂本の天台真盛宗総本山西教寺へ移動しました。西教寺の山門は坂本城から移築されたと伝えられています。こちらには、期間限定の光秀館が設けられ、大河ドラマで使用された衣装・小道具などが展示され、近江での光秀についての物語が示されていました。

西教寺は明智家の菩提寺とされ、境内には明智一族の墓所もあります。時期的には早かったのですが紅葉に包まれた階段を登り切ったところに墓所があり、光秀の妻熙子も一族と並んで祀られていました。光秀は西教寺で行われた熙子の葬儀に、慣習を破って参列したことが寺の文書に前代未聞と記されているそうです。



本堂から渡り廊下を進んで光秀の供養米寄進書、寄贈の花瓶などを拝見しました。その後、滋賀院門跡、坂本城址公園を訪れました。公園は坂本城跡の少し南側に位置しています。

光秀には、本能寺の変で信長を討った武将、謀反人という認識を持っていました。1994年の琵琶湖渇水時に坂本城の石垣が湖水から姿を現したことが話題になり、坂本が最後の居城だったのだと初めて知りました。今回、大河ドラマで取り上げられたこともあり、光秀と湖西地域との関わりがクローズアップされたと思います。生誕地にも6説があるように、前半生はまだ謎に包まれた人物ですが、湖西特に坂本には光秀の足跡がはっきり残っています。

琵琶湖の周りには多くの人々の生活とその歴史が残っています。多くの皆さまとともにその跡をたどる行事が開催できるように、このコロナ禍が早く静まるように願っています。

浅野 (S50 理化)

★★★ 西浅井 (にしあざい) が好きなんです。 ★★★

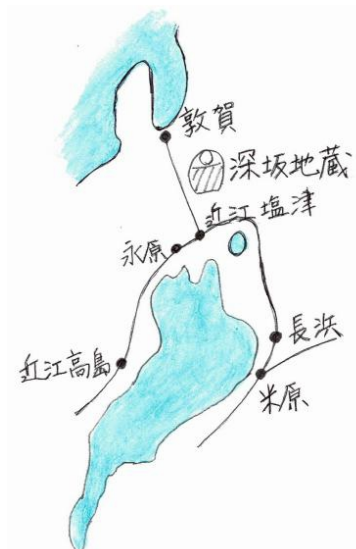
奈良時代のお話です。檜磐島 (ならのいわしま) という男が、敦賀で買い付けた品を船に載せて高島の辺りまで来ました。そこで閻魔大王の使いとして自分を迎えに来た鬼たちに会います。奈良の家に帰るまで待ってもらいご馳走すると、鬼たちはお礼にと、他人を身代わりにして寿命を延ばしてくれます。それが閻魔大王に発覚しないように大安寺でお経をあげてもらって、磐島は長寿を保てましたとさ。平安時代初期の仏教説話集「日本霊異記」にあるお話です。

古代、先進文化圏との交易は、官船は難波津から瀬戸内海・太宰府経由です。が、多島海で潮の流れが複雑な瀬戸内海より、日本海沿いの方が遥かに近く易いと言えます。都へは敦賀から琵琶湖・瀬田川・宇治川・巨椋池 (おぐらいけ)・木津川と、ほとんど船を利用できます。もちろん陸路を馬で運ぶより船に載せる方が多くの荷を楽に運ぶことができます。敦賀・都間の陸路で難渋したのは、塩津までの峠です。何とか船引道が通せないかと何度も試みられたようですが成功しなかったことは、こんな伝説として残っています。

峠を掘り下げようとして大石にぶつかります。それを掘り起こしたら地蔵が彫られていて、荒っぽく扱った人夫たちは病に倒れます。その石像は深坂地蔵として祀られ、以来工事は止んでしまったのでした。

我々が西浅井町 (現長浜市) で昔話調査をして「西浅井の昔話」を出版したのは、もう半世紀ばかり前のことです。1955年に、塩津・永原両村が合併して西浅井町になったのですが、両地区は山地で隔てられています。永原地区に町役場、塩津地区に中学校と、気を使った合併でした。各地区で聞き取りをしていると、両地区の文化圏の違いがはっきり見えてきました。昔話も同様に、山地を超えて語られてはいませんでした。例えば、淳仁天皇伝説は永原地区で、深坂地蔵由来は塩津地区でというように。今ではトンネルのお陰で、列車も車も楽々と走り抜けていきます。が、古代から、大浦・菅浦・塩津の港で、琵琶湖を介しての交通の盛んな歴史を重ねてきた土地なのでした。ここで触れなかった菅浦文書 (菅浦の中世・近世の記録) や淳仁天皇伝説など、西浅井の魅力はまだまだ尽きません。

山口裕子 (S42 文国 奈良支部)



《今、奈良では・・・》

佐保会の理事に就任してから、毎月の会議のほかに佐保会館ので当番、行事などで月に2、3回は奈良に出かける生活が続いていました。ところが新型コロナウイルスの蔓延による緊急事態宣言の後、大学構内に入れない時期が続きました。昨年10月、半年ぶりに佐保会館に登館しました。入構者の氏名を届け、門衛所では氏名を記入した用紙を所定の箱に入れることが必要です。



そのころでもリモートと対面の授業は半々位と伺いました。この冬からコロナウイルスは以前にもまして猛威を振るっています。同窓会の活動はともかく、学生の皆さんには、早く元どおりの学生生活が送れるようになってほしいものです。

浅野 (S50 理化)

■お悔み■ 心よりご冥福をお祈りいたします。

高瀬 八重子様 (S22 文 2020年3月15日ご逝去)

坂江 節子様 (S22 文 2020年4月27日ご逝去)

辻 喜久子様 (S43 理数 2020年8月ご逝去) 平成15年から3年間、支部長をしてくださいました。

ご遺族のご意向により連絡はお控えください。

.....お願い.....

- ・ 皆様の作品をお寄せください。ホームページ・支部だよりに掲載させていただきます。
- ・ 会員の皆様の受賞の情報などご存知でしたらお知らせください。広くご紹介したいと思えます。投稿・情報のご提供は支部長までお願いします。
- ・ 2020年度の会費未納の方には払込取扱票を同封しています。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方は口座間振替をされると料金が安くなります。ATMの利用によりさらに安くなりますのでお勧めです。既に払い込み済みの場合はご容赦ください。
- ・ 住所・電話番号などを変更された方は支部長までご連絡ください。
- ・ 滋賀支部ではホームページを開設しています。「佐保会滋賀支部」でご検索ください。
- ・ 支部の行事をお手伝いして下さる方はいらっしゃいませんか。支部長までご連絡ください。

《編集後記》

今年度は支部事業の実施もままならない状況でしたので、支部だよりには少し趣向を変えて、他支部の佐保会員の方から見た滋賀という視点で、奈良支部の山口裕子さんに原稿をお願いしました。山口さんは、現在、本部の佐保塾の講座「古典を楽しむ」の講師を担当されており、滋賀の昔話等にも造詣の深い方です。

他には、おうみ佐保塾で訪れる予定だった光秀ゆかりの地を支部役員が歩いた紙上現地探訪、在宅生活でも楽しめる文音連句の紹介、奈良の今の様子などを掲載させていただきました。

次年度の佐保会滋賀支部の総会につきましては、できれば実施したいといろいろ検討しておりましたが、現在の新型コロナウイルスの感染状況から見て、今年度同様、書面によるご報告になる可能性が高いと思っております。事情ご賢察のうえご理解をいただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様におかれましては、次にお出あいできる機会まで、健康にご留意のうえお過ごしくださいますよう祈念申し上げます。(山仲)

